

介護老人保健施設

ほのぼの苑

だより

発行所
〒018-1401
潟上市昭和久保字街道下92-1

医療法人 正和会
介護老人保健施設
ほのぼの苑

TEL (018) 877-7115
FAX (018) 877-7481

ホームページ
<http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp>

編集責任者 加藤稔樹
発行責任者 小玉敏央



五月誕生会

五月二十八日に相談室にて、誕生会が開催されました。一年を通して、山の緑や花々が咲き誇る五月にお誕生日を迎えられました入苑者の皆さん、おめでとうございます。

今月は入苑者の方々と一緒にご家族の方々にもご協力して頂き、どら焼き作りに挑戦しました。

お孫さんと一緒に作られている方や奥様へ作っている様子を奥様が笑顔で見つめている微笑ましい様子を見ることが出来ました。どら焼きをひっくり返す時のかけ声と一緒にこぼれる笑顔。飽、カスタードクリームをのせる時の真剣な顔など皆さん、表情が豊かでした。形の不揃いは愛情と愛敬、そして真心でカバーされました。日頃、拝見する事の出来ない見事な手捌きで作られている姿は、感動致しました。

当苑のシェフを会場に呼び、パースデイクーキのデコレーション過程を間近で見させて頂きました。砂糖を溶かして、フォーク一本で作った物は、ふんわり綿菓子のようにクーキを包み込む繊細なものでした。

一人の入苑者の方が、自らお茶を点ててください、皆さん、手作りのどら焼きとケーキを美味しそうに食べておりました。その入苑者の方は、シェフにもお茶を点てられて、さりげない心遣いに職員も勉強させられる場面もありました。

この誕生会が「良き日の思い出の一ページになりますように」と願っております。

梅雨の時期に入りますが、健康に注意し、憂鬱なこの時期を乗り越えていきましょう。ご出席頂きましたご家族の皆さん、ありがとうございました。

(高松 明美記)

大久保月山神社 お祭り見学

五月四日、五日の午後に大久保月山神社のお祭りに行ってきました。五日は少し肌寒く、あいにくの曇り空でしたが、降雨に見舞われることなく、出店を見ることができました。

出店では、お好み焼きや焼きとうもろこしなど「お祭りならでは！」な美味しそうな食べ物がたくさんあり、皆さん「あれも食べたいけど…、こつちも…」と、何をかうか悩まれていました。一番人気は、食べやすいバナナチョコだったでしょうか。最近はややピンク色のバナナチョコもあり、不思議そうに見ている方もおりました。また、金魚すくいをされた方や植木をじっくり見ていた方など、短い時間ではありましたが、それぞれの楽しみ方でお祭りを満喫されたのではないのでしょうか。

五日の午前中には、子供神輿の方たちがほのぼの苑にも立ち寄って下さいました。遠くからお神輿の掛け声が聞こえてくると、入苑者の皆さんも、その声に耳を澄ませ、いつ来るのかと、嬉しそうな笑顔を見せながら待っていました。雨模様という事もあり、少し濡れた子ども達を心配しながら、握手や会話をしていました。昔のお祭りの事を懐かしみながら話している方もいれば、中には嬉しさのあまり、涙を流

された方もいらっしゃいました。可愛い子ども達と交流することができ、皆さんいつも以上に良い表情をしておられました。

大久保月山神社のお祭りはこのように地域の皆さんとも触れ合える良い機会だと思います。まだまだ気は早いですが、来年的にお祭りも入苑者の皆さんに楽しんでもらいたいと思います。

(荒井 美香 記)



ほのぼ農園

プランター作り

プランター作りは先月の五月十日に行われました。当日は晴天に恵まれたため、沢山の入苑者の方々が一緒に中庭へ出て、作業を手伝って下さいました。

午前中、まずは苗を買いに行くところから始まり、野菜作りに詳しい入苑者の方三名と一緒に出かけ、ミニトマト、キュウリ、パプリカ等の苗を何本か買って来ました。同行して下さいました入苑者の方は、職員より遙かに知識や経験が豊富で、「太くて短い苗がいい。」と、言う台詞と共に、苗は次々と選ばれ、あつという間に購入する苗は決まってしまうました。

三名の厳しい目によって選ばれた苗は、皆、茎が太く、大きすぎず、しっかりとした力強い物ばかりで、満足げな表情を浮かべ、そんな入苑者の方々をとても力強く感じました。

午後から選んできた苗をプランターに植え付ける作業が行われました。そこでは午前中に苗選びをして下さった入苑者の方の他にも、沢山の入苑者の方々が中庭へ出て、苗植えをして下さいました。皆さん、声をかけると一つ返事で積極的に参加して下さいました。職員がある程度のところまでは準備してはいたのですが、苗植えが始まると、皆さん慣れた手つきで、添え木を

するところまで、全ての作業を次々とこなされ、水掛の方が追いつかず、職員は水汲みに追われて忙しく走っていました。皆さん作業中の真剣な表情は一変し、作業を終えると、懐かしさと達成感が笑顔に表れていました。

今回の作業を通して、入苑者の方々に懐かしさを感じていただけたのはもちろんですが、昔の知識や経験を活かした作業、また私たち職員にそれを教えることによつて、入苑者の方々のいつもと違った一面見ることが出来たという事が、一番の収穫だったのでないかと思えます。プランター作りは入苑者の方々の笑顔と共に大成功に終わりました。

(安田 幸記)



ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」
は、苑内での感動する話をご紹介
するコーナーです。

ちよつとイイ話

～五月の業務日誌より～

五月六日

今日は連休後、初の入浴日でした。入苑者の方はもちろん、ご家族の方も喜んで頂ける顔が見られました。連休中も喜んで頂けるよう、色々な行事を行いました。やはりご家族がいつも通り過ごしている姿を見るのは、安心されるのだと思いました。



五月十二日

連休中の写真、先日の中庭でのプラント作業中の入苑者の写真、どれを見ても、皆さん、とても生き生きとした表情で写っているのを見て、「こんな顔を、ずっと見ていきたいいな」と思いました。その為にも職員と協力し、様々な活動を行っていったらと考えます。

五月十二日

入苑者の方々の口にして頂く食事が、何の食材で味付けは、どのようになっているのか、説明できるようにと、献立を見て、入苑者の方々に話すと、「常食でもわからない事があるのに、きざみだと、更にわからないから、教



えてもらうと嬉しい。」と話されておりました。ちよつとした事ですが、うまくコミュニケーションが図れて、良かったです。

五月十九日

ある入苑者の方へ、おやつゼリーをお持ちしたら、ご家族の方がいらしていましたが、いつも自分で召し上がる方ですが、ご家族の方から食べさせて頂いておりました。入苑者の方はいつも以上に楽しく美味しく召し上がっておられました。誰と食べるかは、食欲の上昇に繋がるのだと改めて感じました。



五月二十七日

最近、離床しながら、経管栄養食を流している入苑者の方で、ベッドで流している時は、笑顔を見ることが余りなかったのですが、離床し、スタッフのみんなが声を掛けていた為か、笑顔を見る事が多くなりました。このように、入苑者の方の変化に気付き、良い所を伸ばしてあげられるような介護をしていきたいと思えます。

6 月の誕生会・行事のご案内

平成 18 年 6 月の誕生会・行事は、6 月 25 日午後 2 時から 4 時まで当苑駐車場にて、第 11 回ほのぼの苑大運動会を予定しております。隣のグループホームまめだすか、生活支援ハウスの皆さんも一緒の大人数での運動会となりますので、ご家族の方も是非ご参加下さい。

6 月行事担当職員一同

家族会のお知らせ

7 月の家族会は、7 月 23 日（日）午後 2 時から食堂にて行う予定です。

テーマは未定ですが、日曜日に開催致しますので、ご都合の良いご家族の方は是非ご参加下さい。

事務長 菅原 哲

六月お誕生日の方々
おめでと〜ございます。

ほのぼの掲示板

食中毒について

梅雨の季節となっております。この時期は、食中毒が心配です。入苑されている方々へのご面会・お見舞いに、食べ物を持参される場合は、職員に一言声をお掛け下さい。冷蔵庫に保管し、お渡し致します。感染症予防のため、ご理解とご協力、よろしくお願致します。



幸福

春の陽気と肌寒さ、梅雨の気配、そして夏の日差しと、ころころ天気が変わるこの季節、私はある準備に取り掛かる。それは「虫対策」である。

幼い頃はよく虫取りに出掛け、夢中になって虫を追いかけるうちに傷だらけになり、それでも日が暮れるまで遊んでいた記憶がある。そして虫の姿形や習性に驚き、感動したりもしていた。それなのになぜこんなに虫嫌いになってしまったのだろう。いつの頃からだろうか、嫌いというよりも怖い、恐ろしいという感覚になっている。小学生の頃、靴下の中に蜂が潜んでいるのに気付かず、履いて足を刺された時からだろうか、中学生の頃、ヒラヒラと大きな枯れ葉が肩に落ちてきたと思ったら

ものすごく大きな蛾で叫びながら逃げた時からか、高校生の頃、自転車ですりやかに風をきっている私の額に正面から向かってきたカナブンがぶつかり、一瞬眩暈がした時からだろうか。

これからの季節、虫を見つめるのが怖くて退治することも無視することもできず、ジッと見つめたまま身動きがとれない、あの恐怖の時間がまたくるのかと思うと、まず虫が来ないような対策をたてなければならぬ。そのため我が家には防虫・虫退治のための様々なアイテムを取り揃えているのだ。

虫なんていなくなってしまう方がいいと思つたこともあつたが、風の谷のナウシカの言葉に心が痛んだ。大昔のような巨大サイイズであれば、絶対家の中には入つてこれられないと思つたが、それでは怖くて外に出られない。遠くにいながら、どんな虫でも確実に退治できる、夢のような道具のイメージはすでに頭の中にある。昆虫が好きの人やそれほど嫌いでもない人にとつては、なぜそんなに怖がるのか理解し難いと思うが、きっと気持ちがわかると深く頷いている人も、一部にはいることと思う。

しかし、年齢を重ねていくうちに、この心境にも少しずつ変化が出てきた。自分が母親になつた時には、子供とあの驚きや感動を一緒に味わいたい。そのためには、今から少しずつ慣れていきたいと思うが、まだ母親にはなれそうもない。それとも、いざ親になつた時には、自然とそうなるものなのだろうか。

編集後記

皆さんは、幸福の筆者が 4 月から変わつていたことにお気付きでしょうか？今までの筆者から、この幸福をリレー形式で毎月違う職員が書き綴っています。

(カ)